令和元年9月20日第3回上峰町議会定例会は、町議場に招集された。(第5日)

出席議員 (10名)	1番 鈴木千春 2番 大川徹也 3番 原直弘 4番 吉田豊 5番 田中静雄 6番 原田希 7番 吉富隆 8番 大川隆城 9番 寺崎太彦 10番 中山五雄
欠席議員 (0名)	
地方自治法 第121条の 規定により 説明のため 会議に出席 した者の職 氏名	町長 武廣勇平 副町長 森悟 教育長 野口敏雄 会計管理者 森園敦志 総務課長 高島浩介 まち・ひと・しごと創生課長 河上昌弘 財政課長 坂井忠明 産業課長兼 農業委員会事務局長 日高泰明 住民課長 扇智布由 健康福祉課長 江島朋子 税務課長 矢動丸栄二 教育委員会事務局長 吉田淳 生涯学習課長 小川成弘 文化課長 中島洋 建設課建設係長 高島真幸 建設課管理係長 石橋由子
職務のため 出席した 事務局職員	議会事務局長 二宮哲次 議会事務局係長 江崎智恵

議事日程 令和元年9月20日 午前9時30分開会（開議）

- 日程第1 議案審議
議案第49号 令和元年度上峰町一般会計補正予算（第3号）
- 日程第2 議案第50号 令和元年度上峰町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第3 議案第51号 令和元年度上峰町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- 日程第4 議案第52号 令和元年度上峰町土地取得特別会計補正予算（第1号）
- 日程第5 議案第53号 令和元年度上峰町農業集落排水特別会計補正予算（第1号）
- 日程第6 議案第59号 佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び同組合理約の変更について
- 日程第7 意見書案第2号 地方財政の充実・強化を求める意見書（案）
- 日程第8 委員長報告第2号 決算特別委員会審査報告について
- 日程第9 討論・採決
- 日程第10 委員会の閉会中の所管事務調査の件について

午前9時30分 開議

○議長（中山五雄君）

皆さんおはようございます。ただいまの出席議員は10名でございます。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1 議案第49号

○議長（中山五雄君）

日程第1. 議案審議。

議案第49号 令和元年度上峰町一般会計補正予算（第3号）。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

○7番（吉富 隆君）

ここで暫時休憩をお願いしたいと思います。前日からの引き続きの問題につきまして、全員協議会を開いて方向性を出していきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

皆さんにお尋ねします。今、吉富議員のほうから暫時休憩ということで申し出がありました。いかがいたしましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

異議なしということで認めます。

したがって、暫時休憩をいたします。休憩。

午前9時31分 休憩

午前10時20分 再開

○議長（中山五雄君）

再開いたします。

休憩前に引き続きまして、議案審議を再開いたします。

○産業課長（日高泰明君）

皆さんおはようございます。

私の不適切な発言により、吉田議員に御迷惑をおかけしてしまいました。

このような議事運営の進行の妨げることをしてしまいましたことに対しまして、深くおわびいたします。

今後は言動に十分注意をいたして職務に励んでいきたいと思っております。どうも御迷惑をおかけして申しわけありませんでした。

○議長（中山五雄君）

それでは、議案第49号の令和元年度上峰町一般会計補正予算（第3号）。

質疑をお願いします。

○4番（吉田 豊君）

私の質問で中断したことをまずもっておわびを申し上げたいと思いますが、私の質問の要旨は、少なくとも昨年のもりもりファームの失敗を二度と繰り返さないという趣旨のもとに発言したものでありまして、この事業に反対するものではありません。したがって、要綱の提出もままならんということでございますので、私は要綱をつくっていく中で3つの条件とございますか、要綱の中に織り込んでいただきたいというふうなことでございます。

まず第1点は、個人であれ、法人であれ、過去3年間ぐらいの決算の内容を、決算書の写しを添付させるというのが1つの条件ですね。

それから2つ目に、この事業を申請する者は、上峰町の認定農業者でなからんばいかんということを加えていただきたいと思えます。それは、農業委員会が認定農業者の認定をするわけですが、向こう10年間の収支計画を立てて承認をもらうわけですから、その認定農業者の収支計画を精査して、これで間違いのない、これならできらるだろうということによって事業者の選定を決定していく手段として参考にするために、認定農業者であるということに条件に付していただきたいと思えます。

もう一つは、国庫補助事業であれ、県補助事業であれ、国が2分の1、半額ですね、県が4分の1、自治体が4分の1というのが今までの補助事業では最高の補助金の額です。したがって、今回の町の単独事業であっても、4分の1の施行主といたしますか、事業主の負担金

は取る必要があるんじゃないかということで考えますので、以上の3つを交付要綱の中に入れて、そして事業は間違いなく補助事業が遂行するということを確認の上に事業者の決定をしていただくということを条件に付してもらいたいと思います。

以上です。

○議長（中山五雄君）

執行部の答弁をお願いします。

○産業課長（日高泰明君）

議員御提案のところでは要綱を作成しまして、今後諮っていきたいというふうに考えるところでございます。

以上でございます。

○4番（吉田 豊君）

今、執行部のほうから御答弁をいただきましたので、この項については私の質問を終わります。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○3番（原 直弘君）

補正予算に関する説明書、9ページでございます。

款の2. 総務費、項の1. 総務管理費、目の18. 中心市街地活性化事業費、節の17. 公有財産購入費、中心市街地活性化事業用地購入費200,513千円の件を質問したいと思います。

まず、確認ですが、本定例会の一般質問のやりとりの中で、この用地購入に当たっては、事業者募集時においては用地の購入は事業者が行うということで募集をかけていたということだったのですが、事業者と競争的対話を進める中で、事業者から用地購入は負担になる、重いという話になって、今回の用地買収を町で買収を行うようになったということの説明があったかと思いますが、まずその理解でよろしいか、そのあたりの説明を詳しくお願いいたします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

皆様おはようございます。原議員からの御質疑にございましたように、一般質問の中のやりとりでそのように私のほうから発言した経緯はございます。

与条件の中に経済的な条件というもの、これは経済的条件ですので、さまざまございます。これは事業者が事業実施していく上で実行を円滑化するために対話を重ねているところではあるんですけども、土地の購入費、買い増し用地に関して、事業費を上乗せという形では障害になりかねないという意見も確かになされてございます。これにより、事業を実施する際の障害の一因となる懸念という評価はしてございます。この障害を取り除くことで、少しでも事業を円滑化させる際の一助になるという考えはあるかと思います。それをもちまして、

今回計上し、直接町による取得を行おうということで今回計上させていただいたというような経緯になってございます。

以上です。

○3番（原 直弘君）

今のこの用地買収は、競争的対話の中で生じたということで確認はしました。

まず、この用地買収の件、用地買収の負担の件で業者との競争的対話、それがいつごろお話があったのか、お尋ねいたします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

いろいろな話をしてございます。時期の特定といえましょうか、ずっとやっておりますので、ほかの話もいろいろあるもんで、時期の特定自体はにわかに私も覚えてはいないところではあるんですけども、具体的にどうしていこうかというような話をしていたのは、今年度募集が終わってその後なので、6月議会以降ぐらいかなというふうには思っているところでございます。

以上です。

○3番（原 直弘君）

今、話が出たのは6月議会以降ということで話を受けましたけど、実際、提案書を受け付けられて、プレゼンテーションが5月下旬ごろ行われたわけなんですけど、この際のプレゼンテーションのときにそういうお話はあったのかどうかお尋ねいたします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

具体化したのがということでお話をしております。ですけれども、含みとしては多少ございました。

以上です。

○3番（原 直弘君）

今回、プレゼンテーション時に含みとしてあったということなんですけど、これを事業募集では用地買収は事業者負担にさせるということで募集をかけた後にプレゼンテーション時にそういう含みがあってお話があったようだという事は、例えば、そういう事由だったら、ほかの事業者の方、今度応募するときに条件がそういうふうであったのなら、当然、私は事業者としても別の事業者が手を上げていたというか、募集をしたと言われたときに支障があるんじゃないかと思うんですけど、その点についてはどうお考えですか。

○町長（武廣勇平君）

多分、理解が、室長が説明した際に、その土地が重いという表現がリスクであるというふうに誤解されたのかなというふうに今思いました。基本的にPFI事業のVFMの厳選は、土地なんかはVFMにあらわれてこないんですよ。なぜなら、地権者は民間に売ろうが、公共に売ろうが、価格は地権者との交渉でありますから、VFMの厳選は経費、建設やら設計

やら、そうした経費を縮減することであつたり、あるいは維持管理コストの縮減、運営コストの縮減から出てきます。よって、PFI事業でやる上では、このところが重いねという話をされただけであって、リスクのつけかえではありません、これは。

よって、我々は何でここを買いに行くかということなんですけれども、このままでは、例えば、ここを公共が土地を持ち、その上に民間施設が建ち、その中に公共施設があつた場合、必ずその土地代は賃料やら貸借料にはね返ってきます。VFMにあらわせるところじゃないですから。よって、公共が持つほうが安上がりなんです、むしろ。長期でこれを購入する、分割して払っていくということになると、当然、それには更地の価格掛け期待値の利回りであつたり、必要経費、公租公課、この辺が乗っかってきますので、例えば、2億円で今上げていますが、これ220,000千円とか、そういう形になってくるので、なるべく寄附金、あるいは税金を使わないような対応をするために、本町から今回買収にいつているということでございます。

○3番（原 直弘君）

今、町長から聞いて、初めてそういうことだったのかなということでしたんですけど、実際私が疑問に思うのは、皆さん、議員の同僚も同じかと思うんですけど、全然そういう競争的対話、仕様書なり全然こちらのほうに提示がない、説明もない、そういった中でこういう質問があつたわけでございます。ということは、その資料に基づいて、当然、議会に説明を詳しくされるのが筋だと思んですけど、その点どうお考えですか。

○町長（武廣勇平君）

おっしゃるとおりです。私は何で本議会中心主義でやりたいかというのと、やはり本議会は全員協議会と違って住民の皆さんに見えるからですよ。マスコミの方も傍聴されます。だから、このやりとりをまきに行っていくことが、開かれた町政につながるものだと私は思っています。

この本議会の後に、例えば、専門的な知見を持ち寄る常任委員会であつたり、全員協議会でその詳しい説明をと言われれば、それは何度もやっていきたいけれども、今まで本議会前に全員協議会で議案審議と称して予算の要求があつたり、いろんなことがあつた時代がありました、私の町政においては。ですから、そういうことになると、事前審査で実際、本議会では形骸化したやりとりしかなされないという、これはやはり問題だと私自身思っていますので、こここのところは私は何とかこの一線だけは引かせていただいて、審議は数多くやりたいと思います。だから、今回こういうやりとりが町民の皆様に見えて、我々の正当性を主張しています。ですから、これがどういう角度から来てもいいように用意をしていくことが大事ですし、今後、委員会をさらに開いていただいて、その中でやりとりを進めていければというふうに思っております。それは、議会がお考えになることではあります。

以上です。

○3番（原 直弘君）

それでは、議会の中ではお答えできるということで理解しましたので、競争的対話の進捗の内容を詳しく説明していただきたいと思います。

○町長（武廣勇平君）

競争的対話の進捗の内容は、聞かれたことに対して答えられる範囲と答えられない範囲がありますので、お聞きをしていただいて、どの部分でわからないところがあるのか教えていただければ、答弁をさせていただきます。

○3番（原 直弘君）

それではまず、どのような項目で対話をされていたのか、項目ごとに教えていただきたいと思います。

○町長（武廣勇平君）

要求水準書を示しておりますし、その内容については創生室長から答弁させますが、今回、要求水準書の見直しが行われます。これは国のほうでも実際、変更の実績もありますし、それを変更すること、微細な範囲に限って変更することは可能だということで理解しておりますので、その点、創生室から答弁させます。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

要求水準書自体の変更というのは可能というふうに国も指し示してございます。先ほどそれを変えることによって先発して事業者が、これなら初めからこういう条件なら、私も参加できたのと言われるようなことがあるんじゃないかという懸念を議員のほうに示されたら、こういうふうに思っておりますけれども、内閣府のほうでも、平成21年4月3日付の、PFI事業契約との関連における業務要求水準書の基本的考え方というのが発出されてございます。その中におきましても、PFI事業は、管理者等がサービスの水準を業務要求水準書として規定をし、具体的な仕様は入札参加者が個別に提案するいわゆる性能発注を前提とするため、管理者が期待する一定の基準から離れた提案が民間事業者からなされる可能性がある。このような状況が起こることを避けるために、管理者等と民間事業者との意思疎通を図るために質問回答等を行うことで、管理者等と民間事業者との意思疎通を図ることが重要となる。管理者等は、当初から完成度の高い業務要求水準書（案）を作成し、変更しないというのではなく、民間事業者との対話を通じてむしろ内容を改善していくべきだというような考えを持つ必要があるということを国のほうでも申し上げているところでございます。

ですので、内容を大きく変えてしまうような状況であるのであれば、一旦立ちどまったり、あるいは差し戻して再度仕切り直したりというようなことは必要になってくるんだろうとは思いますが、こちらが要求している内容と水準の中で、事業者さん等にとって大きなデメリットにならず、むしろ、ポジティブ的な要因になるというようなものに関しては、恐らくこちらのほうでは内容が認められるというような形で私ども理解しているところでござ

いますし、国のほうもそういう考えを持っているんだろうというふうに思っております。

要求水準書の中身ですけど、当初におきましては、土地に関してはPFI事業で進捗していくよということをまずしてございます。それと、当初は事業者が買い増しをするというスキームで検討してございました。ですので、そもそも町としては当初は購入する予定はないということで考えてございました。

以上でございます。

○3番（原 直弘君）

今は要求水準書についてちょっと説明があって、用地も若干触れられたんですけど、今、町と事業者において解決すべき点、どのような点があるか、あったら教えていただきたいと思えます。

○町長（武廣勇平君）

昨日から教育委員会が体育施設を要求されていますので、ここは早急に解決をしなきゃいけないかなと考えております。

○3番（原 直弘君）

今、そしたら、例えば、今後事業者と競争的対話をする中で、体育館、体育施設ですね、それ以外にも大なり小なりあるのかどうか。あったら、どういう項目なのか、その点を教えていただいて、最終的にそれをクリアするのにどれぐらいの期間がかかりそうなのか、予想でいいですけど、その点をお願いいたします。

○町長（武廣勇平君）

体育センターと武道館の話がございました。私自身は武道館は今のまま補強していくべきだという立場ですが、可能性の調査はしなきゃいけないということで先日答弁したと思えます。可能性調査、要求水準書、この場合、大きな乖離になると室長言いますので、その手続をしなればいけないということと、スケジュールについては、これ業者さんとのやりとりなので、しっかりとしたことは言えませんので、期限をまた言ってしまうと、おくれたとまた言われますので、その点御理解いただければと思えます。

○3番（原 直弘君）

体育施設にかかわるものは、そういった含めてということではわかりますけど、そのほかにいろいろな項目があったら教えていただきたいと思えます。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

幾つか障害となるものというのはございます。ちょっと代表的なところで、ちょっと細々したことは差し控えたいとは思っておりますけれども、例えば、運営中に修繕費用が予想を上回った場合のケースであったり、地中障害、あと議員のほうも一般質問のほうでされておりました、例えば、調整池とか、こういったのも一つ、障害として考えられるというふうに思っております。あるいは地中障害の中では浄化槽とかもございますので、こういったとこ

る、どのように配置するか、こういったものによっても配置は変わってまいります。

あとは急激な物価変動であったりとか、こういったものに関しても予測をしていく必要がある。これに関しては継続してお話を差し上げているところですけど、おおむね大別するとそういうようなところが散見されるかなというふうに考えております。

あとはテナントのあきが生じた場合、どのように埋めていくか、こういったことも大きなリスクの一つということに考えております。

以上です。

○3番（原 直弘君）

項目的には今の説明で概略わかりました。

今回、用地買収費を計上するに当たって、この単価ですね、単価の算出をどのようにされたのか、お伺いしたいと思います。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

これに伴いましては、通常、議員のほうもお詳しいところかというふうには思っておりますけれども、公共用地の取得に伴います損失補償基準要綱とか、細則とかございますけれども、要綱の前提といたしましては、土地収用法その他の法律等によりまして、土地を利用し、または使用することができる事業に必要な土地の取得、または土地等の使用に伴う損失の補償の基準の大綱を定めというように前段書いてございます。今回、こちらで取得する内容といたしましては、そういった土地収用法であったり、公拡法であったりとかというような法律の適用はしておりません。ですので、一般の売買契約という形でしておりますので、地権者との折衝、それを鑑定額の範囲内の中で行って、おおむねの意向額をこちらのほうで確認しているという状況でございます。

以上でございます。

○3番（原 直弘君）

今、地権者さんの話が出たんですけど、ここで通常は予算が町で計上されてありますので、今回予算が通ってそれから動くことになるかと思うんですけど、その前に事業者が地権者に打診したということの経過はあるかどうかお聞きいたします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

事業者が先に折衝しているかどうかということなんですけれども、当然、事業者のほうも優先事業者ではないわけですね、まだですね。ですので、折衝する立場にないというのが彼らのところかというふうには思っております。

当初も申し上げましたように、PFI事業を前提とした上で事業者が用地を買い増しするというスキームでございましたので、町としてはそもそも購入する予定がなかったんです。ですが、PFIという公民連携手法を用いるということを前提としておりますので、民間がこの事業を始めたときに、ある程度事業者が決まった段階で民間が取得できる環境というの

を構築していく必要があったかというふうに思います。ですので、事業着手後に用地の取得ができないとか、あるいは民間のほうが一固定金額の折衝で折り合いがつかなかったと、ですので、事業費が増してしまうんだというような状況にならないように地権者から意向を伺っていたものでございます。

以上です。

○3番（原 直弘君）

今の最後にお話があったんですけど、地権者との折衝は、そしたらあってこの単価を設定したということよろしいですか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

さようでございます。

○3番（原 直弘君）

ちょっと単価的に見ると、安かったので、平米当たり8,020円となっていましたので、たまたまきょう、県内の基準地価ということで今のイオンの近くの商業地の値段が平米当たり28,800円ということになっていたんで、果たしてこの金額で買えるのかどうか、ちょっとまた交渉次第ではふえるのかどうかというのをきょう心配したんですけど、それは今のところはないという認識をされてあるということよろしいですか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

きょう、新聞のほうに確かに出てございましたけれども、交渉における成果だというふうに御理解いただいてよろしいかというふうに思っております。

○3番（原 直弘君）

今回、この点を相当ちょっと掘り下げるのは、今、競争的に対話があっている状況の中、また、イオンとの無償譲渡の件も、これも交渉中ということで、その内容が全然伝わってないので、これからもこういった町が負担するお金、先ほどの社会施設に関しては、こちらのほうの意向ですので、それはそれとして、また今本来、競争的対話で募集した項目の中で、また事業者のほうで、これはちょっときつから、町がもうちょっともうちょっとということで、どんどんふえてくるとなると、全体的に考えなくちゃいけないのかなと。当然、中心市街地は、町が是が非ともしたい事業。事業者にとっては、ここをすることによって、絶対利益を出したい。その利害関係によって相反すると思うんですよ。となると、ごね得じゃないですけど、そういったものが町の負担にこれからもつながるのが懸念材料と思っているんですよ。

何回も言いますが、資料も全然ない状態で、ここの質疑の中だけで判断するのがなかなか難しいというか、進捗状況もそんなわかっていない。もう、すぐ手前にこれ終わって、例えば、1週間以内、1カ月以内にもう終わるような状況ということでの話であれば、当然、この土地取得に関する予算もいたし方がないかなと。当然、20年後には上峰町に返還がされ

る施設プラス土地ですので、それは早く町が出すのも分割して出すのも一緒かと思うんですけど、その点が一番懸念ですね。今、町費がどんどん出ていく状況がこれからあるとすれば。そういったのを払拭できるような状況の説明を、進捗等々の説明をしていただきたいなということが私の意見でございます。

○町長（武廣勇平君）

我々も交渉しながら、こんなにジェットコースターみたいに朝令暮改といいますか、また時間もかかるし、民間との対話が激しいものだとは思っておりませんでしたので、都度都度お知らせするという事は本当に大きな不安と変化、あるいはすごい喜怒哀楽を呼ぶと思うんですよ。ですから、なるべく慎重になっているところは大変御迷惑をおかけしているところかもしれません。ただし、今回のこの議案につきましては、公租公課、必要経費、期待利回りを更地価格に乗せるわけですから、寄附金を充用する上で余計な寄附金を払わなきゃいけないという意味じゃ、リスクをむしろ軽減しにしている予算であります。

また、今回のこの予算の取得価格につきましても、先ほど議員が御理解いただいたとおりでございますので、先ほど創生室長申しました、成果のあらわれということで理解していただければと思います。

○3番（原 直弘君）

ちょっと私が申したいのと、今、町長が答弁いただいたとと、ちょっと若干違うんですけど、この土地については、早いか遅いかの違いで、当然、分割にすると、多く支払うような感じになるんで、それは上峰町が有利ということは理解いたしました。

ちょっと私が言いたいのは、これから先、競争的対話とかイオンとの無償譲渡の件で、町費が使われるような状況だと、そこら辺の線引きをある程度、担当課がつけてないと、ずるずると後退というか、絶対対等な立場じゃないのかなというのが私感じているんですよ。うちは、とにかく是が非でも進めたい中で業者さんが入ってきたと。業者さんは利益追求が一番ですので、その辺になると、今回の土地は先ほど理解しましたけど、それ以降に出てくる可能性もあるので、何回も言いますように、そういう2つの進捗の状況とかを理解できる、納得できるように説明いただきたいというのが私の趣旨でございます。

○町長（武廣勇平君）

実際、席を立ったり何度もしました。60回以上は足を運んでいるんじゃないでしょうか、やりとりを含めればですね、電話での。そういう意味では押し負けているという実感は今のところは全くございません。よって、今後についてはまたいろんな状況が生まれてくると思います。都度都度、適宜、必要なときにお伝えするような機会があれば、こちらから議会の皆様方にお知らせをしていきたいと思っております。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

あたかも私どものほうが交渉で劣勢に立っているかのような印象を与えてしまっているよ

うなところがあるかもしれませんが、実態的に交渉をかなりがしがしやっています、私たちとしては。ですので、相手にもいろいろ要求を当然しております、こちらのほうも。ですので、押し負けているという印象は私どもは正直持っておりませんし、交渉の内容も多岐にわたっておりますので、そういったところでもこちらのほうとしてはいろいろ言うべきことは言って、さらに相手が言って、こちらが納得できるようなことで、しかも、こちらもウインウインだと。今回のケースはまさにそうかと思えますけれども、そういうところも含めた上で、私たちとしても実りをとっていきたいというふうに考えておりますので、決してそういう押し負けるというような状況だけは形成したくないというふうに私も思っております。

以上でございます。

○3番（原 直弘君）

今、室長の言葉を聞いて安心したような、本当なのかなというのが実際の私の心境でございます。やっぱり先が見えないわけですね。担当課とか町長に至っては、当然、交渉の場の最前線に立っておられるから、当然、そういう発言は強気で言われて、言われることはわかるんですけど、実際、最終的に予算を通すのはこの議会の場であって、それがちょっと納得できないと、なかなか難しいわけですね。それで、説明の場を実際つくっていただければ、それなりに状況的にわかるのかなということで考えた次第でございますが、そういった考えは今から先、どの時点であるのか教えていただきたいと思えます。

○町長（武廣勇平君）

これは先ほど大変重ね重ねで申しわけないんですが、適宜行いたいという意味は、例えば、今回のサウンディング以降の要求水準書からPFI事業に入っていくまでの間に、予定としてスケジューリングしたものをベースにおくれているという昨今では、議場でもマスコミの皆さん方からも言われるところです。通常、やはりテナントリーシングをやるのに2年かかるそうです。ところが、うちはそれを最大限早めるためにしっかり努力をしているところですが、期限を言ったり、あるいは状況を都度都度お知らせすると、恐らくこうした不安だとか心配を多く届けることになるので、まだ始まって間もないこの事業を、できるだけ加速させていくこと、そしてやはり必要な局面に来た場合にはお知らせをしっかりとするという意味は、やはり今回の交渉で一番大きかった成果は無償譲渡、これがイオンが言及されたということだと思えます。これによって、やはり我々も前に進むことができているということもありますので、その際にはやはり議員の皆様方にもお知らせをさせていただき、今後どうなるかということを逐次協議、審議していただければというふうに思っております。

○3番（原 直弘君）

今、町長の答弁で、イオンの無償譲渡がという話が出たんですけど、実際、町のほうは、実際、解体費とかかかって10億円と。土地の値段が昨年12月だったんですけど、5億円ぐらいを見込んでいたという話で新聞報道というか、発信がなされたわけなんですけど、今回、

そういう無償譲渡は当然無償譲渡というか、あそこの土地は当然、当然というか、無償譲渡をイオンのほうからしていただいていたんですけど、実際はそれに伴って今、無償譲渡の件でまたお話が続いている中で、それを盾に何か条件をつけられるのもあるのかなというのも一つ懸念材料だったんですよね。実際、解体費が10億円で、土地代が5億円という試算ですけど、今回、隣接地用地を買われるという単価で算出すると、3億ちょっと余りなんで、その差7億円を町が負担するということになっているんですよね。そのなおかつ、そういうお話が続いている中では、イオンさんから何か厳しい条件などがあって、無償譲渡の件も円熟していないというか、経過していないというのが私の考えだったんですけど、その辺は違うということだったんで、答弁をよろしく申し上げます。

○町長（武廣勇平君）

今、スポット的に見られていると思います。だから、全体を見れば、やはり大きな経済活動を生むエリアにするか、それも大きくまた効果としては違いますね。また、建設コストの縮減、設計コスト、そういったPFI事業で行うことで民間とその施設のコスト縮減が可能になるということも大きく違うと思います。

私が先ほど無償譲渡を検討するという発言を引き出したことが成果だと言った意味は、やっぱり引けなくなっているわけですね、イオンさんとしても。やっぱりここは席を立った意味がそういったところを刺激するという意味でもありましたし、そういう条件で闘えるようになっていっているので、今のところはこの議案に関しては、予算に関してはすごく成果があらわれているところだと御理解いただければと思います。

○3番（原 直弘君）

私も中心市街地活性化事業のこのプロジェクトは、町にとっては大変将来的にも有効な活用であるし、事業であるかと思うんですけど、ちょっと町民の方のお話を聞くと、楽しみにしてらっしゃる方もいらっしゃる反面、もうあれぐらいの食料を調達するぐらいで、ちょっとそれに付随した感じの施設があればいいんだ、町費をそんなに投入しなくてもいいんだという話も一方では聞かれるわけですよね。その点を払拭するために、私はそれなりに説明して将来的な子供さんとか孫さんの時代、そういう上峰町の将来像の中を話しているんですけど、否定される方はいらっしゃるんですよね。その中で私としては、ほかの議員さんも一緒だと思うんですけど、ちょっと説明する中では全然情報が来ない中で、ちょっと繰り返しになりますけど、その情報をちょっと、やっぱり知らせていただかないと、以前、執行部は情報とかのひとり歩きが怖いとおっしゃられるんですけど、そういった声に対して、私たちも答える義務というか必要性があると思うんで、そういうのを払拭できるようなまた内容的に教えていただくことはできるでしょうか。

○町長（武廣勇平君）

まず、ちょっと大前提、業者選定過程ですよね。入札と位置づけていただければ、その間

に業者はこう言った、ああ言ったと、普通はやはり言えないものだと思います。その辺はPFIで対応の期間が長いので、議会の皆様方のお叱りはごもっともかもしれませんが、基本やはり選定過程の交渉内容を外に漏らすことが大きなリスクになると私は考えております。

○3番（原 直弘君）

幾ら聞いてもそういうふうなやりとりしかならないということで、今回、一般質問の中でも出たように、体育施設センターの流れもあるということの中でも、実際、この事業がおくれるのかな、おくれるというか、実際、町民が活用できる施設の一つがふえるということで認識したのが唯一のこの成果だったのかなと思うんですけど、ちょっとやっぱり私たちも実際、町執行部から説明して、これは言えない、言ってほしくないというのを守らないわけじゃないんですよ。そういうひとり歩きするのが怖いという考えもあるんですけど、町民の方に伝えてもいいところと言えないところをはっきりすれば、ちょっと何かしらの情報等を議会に伝えていただいてもいいのかなとは思っています。

○議長（中山五雄君）

答弁は。答弁要りますか。（「答弁、よろしく申し上げます」と呼ぶ者あり）

執行部の答弁をお願いします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

なかなか公開できる情報、公開できない内容とがいろいろ混在している中ではございます。先ほどの質疑の中でも、私もちょっと言っているのかどうなのかというようなところで発言した内容も相当数あったかというふうに思っているところではございますけれども、詳細、詰めるべき点というのは結構まだございます。現実に詰めている局面にあるというところで御理解いただければというふうに思っておりますけれども、過程の状態でお示しをした状況で、その後、何がしかの変更があった場合、各議員におかれましても、これは二度手間三度手間の手間の負担を強いる可能性がありますし、情報が混在する状況で、この間はこんな言ってあったのに、今度こんなになっているみたいな話にもなりかねないというところがございますので、そういう可能性含みのこともあり、また、ある程度固まった状態でお示しするのがベターなのではないかというようなことの考えも片やあるということになってございます。その辺御理解いただければというふうに思っております。

以上でございます。

○3番（原 直弘君）

その点については理解をいたしました。

以上です。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○8番（大川隆城君）

それでは、ほかの項目で質問をさせていただきます。

同じ9ページの総務費の目の6. 企画費で19節. 負担金、補助及び交付金で、結婚新生活支援事業というのが上がっておりますが、この中身を説明をお願いしたいと思います。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

こちらのほうにつきましては、歳入のほうでも計上しておりますけれども、歳入のほうで4ページのほうで、地域少子化対策重点推進交付金というものがございます。これは国庫事業で、国2分の1補助で行うものでございまして、これは平成31年の1月1日以降で、事業終了日までに新規に婚姻をした世帯で、夫婦ともに年齢が34歳以下、かつ所得が3,400千円未満である方に対して、1世帯当たり300千円を上限に補助を行うものでございます。

この補助の内容はどういったものかということ、新規に婚姻をいたしました世帯に対する住宅取得費用、または住宅賃借費用、賃貸借ですね、こちらの費用、賃料であったり、敷金、礼金、共益費、あるいは仲介手数料、こういったものが対象にはなるんですけど、ここにかかる支援、それと新規に婚姻した世帯に対する引っ越しの費用というものを支援するというような内容のものでございます。

以上でございます。

○8番（大川隆城君）

そうすると、今ありましたように、34歳以下で3,400千円以下というようなことでありますが、町内の方だけに限らず、町外の方が一緒になって町内にお住まいになれば、当然適用になるということですよ。ということは人口増にもつながっていくということでのことだと思いますが、これは一応、来年の3月、令和元年度内の見込みでこれだけ予算に計上したということですかね。確認のためお尋ねします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

一応、年度の執行ということになりますので、そういった形になるだろうと思っておりますが、国の要綱中は、事業終了日は都道府県または市町村が設定するという事になっておりますので、年度末までのいずれかの日で制定していくということになってくるかというふうに考えております。

以上です。

○8番（大川隆城君）

今回、こういうことで補助金もついて実行されるわけですが、これは今年度だけに限らず、今後ずっと継続的にされていく予定のものか、その辺ちょっと確認の意味でお聞かせください。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

次年度以降については、何らこちらのほうでは情報を持っておりませんが、とりあ

えず今年度ということでは事業執行ということで聞いておりますので、次年度以降については、また国の予算編成の段階ではっきりわかってくるだろうというふうに思っておりますので、その辺はちょっと網を張っておきたいなというふうには思っております。（「はい、わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○2番（大川徹也君）

議長に少し御相談があります。実は私が今から質問しようとすることは、同僚の原議員がおっしゃった中心市街地活性化事業用地購入費に関するものと、同僚の吉田議員が御質問されていましてふるさと産業活性化事業交付金についての質問を思っておりました。こういった流れの中であちこち質問になってしまって、また執行部にも対処の御迷惑をかけてしまうなどというような気持ちもあるんですが、こういう質問はできますでしょうか。また、戻ってというか、またこの項目に戻って質問はできますでしょうか。

○議長（中山五雄君）

議案第49号内ならば結構ですよ。それ以外のとはだめです。（「了解しました」と呼ぶ者あり）

○2番（大川徹也君）

それでは、まず、同僚の原議員がさきに、直前におっしゃった中心市街地活性化事業用地購入費についてなんですが、これについて質問をさせていただきます。

今、原議員と執行部のやりとりを聞いていて、質問させていただきます。

原議員とすごく似ているんですけれども、そもそも論なんですが、そもそも今、執行部が企画提案しているPFI事業による中心市街地、イオン跡地を中心とした中心市街地活性化事業というものが、正式に言うともまだ何も決まってない状態ですよ。水面下で動いて一生懸命交渉しておられるのは重々承知しておりますけれども、正式に言うとも何も決まってない。本当にこれができるのかどうかということさえもわからない状況なんです。私たち議会の立場からすると、執行部は同僚がやりとりの中であったように、一生懸命交渉して、やっぱり町のためにもということで、それはすごく当然認めますよ。ただ、私たちにはわからないんですよ。

そして、このような状況の中で、なるかならんかもわからないような状況で、そのために土地を町が購入しますということでも私たちはそれが是か非かというのがすごく判断しにくいんです。なぜなら、事業がどうなるのか、2021年夏オープンということで今向かっておられることも新聞などを通じてしかわかりません。正式発表もありませんので。その中で、この2億円という多額の金額ですよ、本当に大きい金額だと思います。そして、このお金をもともと支出する予定じゃなかったところだけど、やはりいろんなことを配慮してこの事業

を進めやすいためにということで自分たちなりに考えておられることは重々承知しております。しかし、私たち議会人としては、正式には何もわからない状態なので、本当に、じゃ買った方がいいです、買った方がいいけど、断念しました、断念というふうまくいきませんでした、この交渉がということになる可能性というのもやっぱり想像します。そうするときに、これを買うかどうか、是か非かというのが正直判断できないというところが実情なんですね。

今回、ことしの夏なんですけれども、議会の振興委員会のほうで、岩手県、今現在、執行部が今回の再開発のモデルやアイデアのもとになったものや、モデルとして考えている岩手県紫波町、オガールについて視察研修に行かれました。その中で手法としてすごい数の執行部と議会の対話が事前に持たれていたということを知りました、ウン十回、60回とか90回とか言われていましたから。数年かけて。ですから、今、町長は基本的に本会議を重視して、そのやりとりの中で基本はいろんな情報を提供したり、質疑に答えて、そういった中でやっていきたいということでおっしゃっていました。ただ、その手法ですずっとやっていこうとすると、かなり議会の、私だけかもしれませんが、原議員も同じ気持ちだろうと思いますが、いろんなところで本当に判断に困るところがいっぱい出てくるんですね。こういったことはやはり少し執行部側として考えをもう少し検討されたらどうかなというのが私の考えなんですね。というのが、せっかくいいことを、いい方向に持って行ってやろうとしているのに、私たち議会との間に大きな溝があるために、そこで相互理解が進まず、本当にどう、わからずに賛成、わからずに反対というのも本当にできないんですよ。

○議長（中山五雄君）

済みません、大川徹也議員、あなたの言われていることはわかりますけれども、少し簡潔に質疑のほうをよろしくお願いします。

○2番（大川徹也君）

はい。それでは、この中心市街地活性化の事業について、私たち議会をいろんな問題も懸念されるからということもわかりますが、議会を信頼して、この情報提供や連絡、そういったものを密に本会議以外とかでは、私たちそのためには頑張ります。時間的なものと、そういったことを機会を考えられるということはされませんか。

○町長（武廣勇平君）

適宜そういう機会をつくっていきます。

オガール紫波についても、業者選定過程の中で議会に御相談して意思決定してきたということはないと思いますよ。業者が決まり、そしてそこから展開する事業をする上で多くの町民と多くの議会の皆様方の対話、当然必要なことだと思いますし、これは室長が答弁したように、節目節目でそういう時期があらわれるわけけれども、今回の今の選定過程です、まさに、業者を、誰が行っていくか、条件をどうしているところに、それを一つ一つお知らせするということが節目節目でやるべきじゃないかと。無償譲渡の意向を示し、さいにゆ

うじょうの検討をしているといったイオンの意向のときにはお知らせをしまして、こうやって議案を上げて、これがどういう趣旨でどういう買い方をするのか、あるいはそれが町民の税金の使い方に適当なのかどうかについてはこうやって審議をしているわけですから、そういうタイミングで適宜行っていきたいと思っています。

○2番（大川徹也君）

それでは、ちょっと具体的な話をします。

この用地買収が事業者側が本来やるべきものということだったけれども、事業者がこれが重いというような御発言が、御意向があり、それを町が行ったということですが、事業者側が行うということですが、事業者側は複数いて、全てがこれについて重いということをおられるんですか。まだ優先事業者が決まってない状態ですよ。その辺のことを教えていただけますか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

何社とかどこがということはこれまでも申し上げておりませんでしたので、そういうことに関しての言及はちょっとしないというふうに思っておりますが、ただ、予算で先ほどのやりとりも含めまして、予算の計上もということで今回上げているわけですから、その辺をお察しいただければおのずと見えてくるのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○2番（大川徹也君）

この中心市街地活性化事業費については、多分、これ以上、ちょっと相互の理解、歩み寄りがちょっと難しいかなと思うので、これでこの質問は終了します。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○1番（鈴木千春君）

先ほどの同僚議員の話を伺っていて、私なりに理解したことが正しいかどうかということを知りたいなと思っているんですけれども、このたびの対象用地については、競争的対話を重ねる中で、町が用地を購入し、民間企業のリスクを軽減するという判断に至ったかと理解したんですけれども、その判断に至った理由については、集約すると、要するに経費、運営コスト、貸借料等を払い続けるよりも、このたびの町が用地を購入するほうが、町としては支出が少なく、加えて民間企業のリスクが軽減されて、その結果、本事業が進捗するというふうに理解したんですが、その理解で正しいでしょうか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

議員おっしゃられるとおりでよろしいかと思えます。

○1番（鈴木千春君）

それでは、再度重ねて質問させていただきたいと思うんですけれども、この発生するコス

トについて、もう少し詳細にお伺いできないかなと思っています。お願いします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

済みません、コストの意味がちょっといろいろございまして、どのコストのことを言われているのかというのが済みません、よくわからなかったので、再度よろしいでしょうか。

○1番（鈴木千春君）

恐らく町長の答弁で言っていた箇所だと思うんですけども、経費の削減、運営コストの縮減とか、あと貸借料等を話されていたかと思うんですが、今回、用地を購入すること、払い続けるコストという比較が安いという話は理解しているんですけども、そのコストについてはどういうものがあるのかなということをちょっとお伺いしたく、質問しています。

○町長（武廣勇平君）

購入価格に期待利回りがまず加わると。造成費、解体費用、消費税、公租公課、不動産取得税が我々が今想定してもそれぐらいかかってくるだろうなというふうに思っております。

○1番（鈴木千春君）

今おっしゃっていただいたコストについては理解しました。その積み上げた金額と、このたびの補正予算で組まれたこの200,513千円について比較を行った際に、こういう用地を購入するという判断のほうが支出が少ないということを理解した上で改めて宣言していただきたいなと思うんですけども、この用地の購入を進めることで、本事業は進捗するというふうに理解してよろしいでしょうか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

そのように私理解しております。

○1番（鈴木千春君）

そのように理解していただいているという前向きな答弁をいただけたかと思うんですけども、やはり同僚議員からもいろいろ話が出ていたかと思うんですが、私からも最後に要望させていただきたいなというふうに考えているんですけども、本事業に関しては、民間企業がかかわっているということで、公開できる情報が少ないということがやはりいろいろ議論のテーマになってきてしまっているということと、一方ではそれを裏返すと、議会もそうですし、住民の方々の期待がそれだけ集まっていると。どうなっているの、どうなっているのということのやりとりになっているかと思うんですよね。先ほどの答弁の中でも、節目節目で公開できる情報があればという話があったと思うんですが、私からも改めて公開できる情報ができたタイミングでは、議会と住民の方に対して積極的な情報発信をしていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○議長（中山五雄君）

答弁は要りませんか。（「いいです」と呼ぶ者あり）

ほかに質疑はありませんか。

○8番（大川隆城君）

13ページをお願いいたします。13ページの款の8．土木費の道路新設改良費ですね。13節．委託料、それから15節の工事請負費が上がっていますが、それぞれ説明をいただきたいと思っています。

そして今度は、またその下の用悪水路費の15節．工事請負費、これについても説明をいただきたいと思っています。お願いします。

○建設課建設係長（高島真幸君）

こんにちは。私のほうから大川議員の御質問に対してお答えしたいと思います。

先ほど言いました道路新設改良費で委託料につきましては、町道米多坊所線排水路工事にかかる実施設計業務委託料として2,200千円、町道下津毛三田川線改良計画策定業務にかかる委託料として8,100千円、合計10,300千円の委託料の補正をお願いするものでございます。

まず、米多坊所線排水路工事实施設計業務委託についてですが、今回、町道西峰東西2号線の交差点部から南に下り、株式会社中山建設の東側のカーブ付近までの水路上部にコンクリート床版によるふたかけを行うことにより、歩行者等の転落防止を図るものとなっております。

次に、町道下津毛三田川線改良計画策定業務でありますが、当該路線につきましては、本町の防災計画において、第3次緊急輸送道路、また緊急避難道路として位置づけされております。しかしながら、一部の区間にあつては、車両の離合ができない箇所もあり、緊急輸送道路を道路等として決して十分な機能を持っているとは言えない状況であります。よって、当該路線の現状調査を行い、整備計画を策定するために補正予算をお願いするものでございます。

続きまして、同じく道路新設改良費の工事請負費でございます。こちらにつきましては、今年度に入り、中学生が自転車で下校中に当該排水路に転落しそうになるという危険な状況に直面したとの報告がっております。今回の報告は、一步間違えば重大な事故になっていることは間違いなく、地区要望もあつており、早急に転落防止対策を実施する必要があると考えております。実施設計の業務完了後、直ちに発注手続に入るため、また、安全確保を早急に図るため、その施工に必要な工事費について補正予算をお願いするものでございます。

続きまして、同じく款の8．土木費の項の4．下水道費の節の15．工事請負費2,000千円でございます。こちらにつきましては、町営団地浮立の里米多団地南側の水路のり面整備工事に関する補正予算でございます。

当該箇所につきましては、団地建設時に防草シートを設置していましたが、経年劣化により、その機能を果たしておらず、現在、除草作業が必要となっております。

今回、恒久的な構造物である張りコンクリートを設置することにより、今後の維持管理の

省力化、経費の削減、また、住環境の向上を図るために補正予算をお願いするものでございます。

以上です。

○8番（大川隆城君）

まず、道路新設改良費の関係で、委託料と工事請負費、それぞれ説明をいただきました。

それで、米多坊所排水路関係ですね、今、説明いただきましたが、一応延長としては中山建設さんの事務所がある付近までということでありましたが、これは小、中学校生徒の通学路の範囲ということで、その辺まで設定されているのかなという思いがしますが、じゃ、それから先は今後また同じようなことでされていく予定なのか、その辺をまずお聞きしたいと思います。

それと、今度は下津毛三田川線、これも狭いのでと、離合もできないからということで今度改良をしたいということではありますが、そうしたら拡幅されるわけでしょうけれども、大体計画としてはどれくらいの道幅拡幅を考えておられるのか、ちょっとお聞かせください。

○建設課建設係長（高島真幸君）

まず、町道米多坊所線排水路工事に関してですが、米多坊所線、先ほど最初言いました町道西峰東西2号線から南北のところにつきましては、幅員が5メートルない状態のところが多くあります。こちらにつきましては、今回、コンクリ床版を主にかけるところです。また、中山建設さんの東側部分のところでは今回は終わりますが、そちらの米多坊所線の東西にはしる区間につきましては、8メートル強の幅員がございますので、今回までの事業と考えているところです。

続きまして、下津毛三田川線改良計画につきましては、こちらにつきましては、今回発注いたします改良計画において調査を行いまして、必要な幅員等決定するところでありまして、今のところ、計画している幅員はございません。

以上です。

○8番（大川隆城君）

今、下津毛三田川線については、まだまだ幅員がというところまでいっていないということではありますが、今回、計画設計をするときには当然決まるとは思いますが、これも早晚決まってくるかと思えますけれども、そうですね、よその地区が5メートルか、ないしは6メートルという道路幅がほとんどになってきているかと思えますが、それくらいになるんじゃないかというふうに想定しとってよろしゅうございませうか。

○副町長（森 悟君）

今、議員のほうからお尋ねの幅員の件でございます。

ここは先ほど建設係長からも御説明申し上げましたように、緊急輸送道路、そして緊急避難道路として位置づけております、防災上、重要な道路でございます。生活道路でもありま

すし、また、先ほど来の集落間を連絡するような重要な路線でもございますので、今回は防衛予算も視野に入れながらの調査でございます。そして、今後は補助をいただきながら、実施設計等をやっていく。そして、議員お尋ねの幅員等を決定することになります。今回、その事前の調査でございますので、しっかり補助もとれるように、私どもとしてはその事前の作業として位置づけているものでございます。したがって、町内にはまだそのような重要な路線ございますので、しっかりと私どもとしては改良をしまいたい。そして、従来申し上げておりますように、道路法、そして道路構造令に合致するように、補助どりとしますと、当然それが前提でございますので、そして安全・安心な道路になるよう今後十分に計画を続けていきたいと考えております。（「よろしく願いしておきます」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○2番（大川徹也君）

補正予算12ページですが、款の6．農林水産業費、項の1．農業費、目の3．農業振興費、節の19．負担金、補助及び交付金のふるさと産業活性化事業交付金についてですが、これは従前の同僚議員との執行部とのやりとりの中で幾つか認識をしました。町単費の事業であるということですね。このふるさと産業活性化事業交付金というのはどういう経緯でこういったものを予算に組むようになったのでしょうか。

○産業課長（日高泰明君）

6．農林水産業費、項1．農業費、目3．農業振興費、節19．負担金、補助及び交付金のふるさと産業活性化事業交付金でございますが、この事業背景としましては、国、県の事業対象とはちょっと難しいような、ハードルが高いような事業を町独自で要件等を低くして町単独で事業を行う、また、この事業を行うことによって町の振興につながるというふうなところの品目について、町で振興を図っていくところで事業計画をしているところでございます。

以上でございます。

○2番（大川徹也君）

今、産業課長から御説明をいただきまして、その中で例えば、県とか国の補助を受けるに当たってはハードルが高いというような話をされましたけど、ちなみにどういうハードルが高いと考えておられたのでしょうか。

○産業課長（日高泰明君）

国、県事業というふうなところで、一概に事業要件等のところではございませんが、事業要件的には国、県のところにつきましては多分に受益面積、施工しなければならないような、つくらなければならないような面積要件がございます。また、地域的な要件、また事業の実施のスピードもございます。当初、要望につきましての前年とかその前のときから国、県に

申請をして、それで交付決定にこぎつけなければならないというふうな事業スピードを速くするというふうなところでも町の戦略的なところで行っていきたいというふうなところでございます。

○2番（大川徹也君）

今回のこの事業交付金が、具体的に言うと、ブドウ施設をつくるための施設づくりというふうにお伺いしていますが、このブドウ施設というふうになった経緯は何でしょうか。

○産業課長（日高泰明君）

事業の交付金の今予算額としましては、園芸施設というふうなところで予算化しているところがございます。園芸をするための施設としまして標準的なところというふうなところで予算措置を考えまして、鉄骨の予算、園芸用のハウスのところの規模要件について、当初、予算化するに当たっては金額を入れているところがございます。

以上でございます。

○町長（武廣勇平君）

ですから、ブドウに限定したものでなく、イチゴ、アスパラですね、あとトマト、こうしたものも対象になります。

○2番（大川徹也君）

このたび、例えば、現在、農家でイチゴをつくっておられる農家さん、上峰町にもおられますし、ブドウをつくっておられる農家さんも町内におられますが、ちなみに、こういう補助金を出してこの園芸施設をつくって、さあ、やりたい方いらっしゃいませんか、その先にある上峰町の目的というのは具体的に何ですか。

○町長（武廣勇平君）

町内にハウスが建ち並んで勢いがつくということですね。やはり耕作放棄地がふえているところで、大規模指向の、外から流入してくる法人の方もいらっしゃいますが、いまいち広げられずにいる。それに刺激を受けて内部的に拡大しようとしている方もどんどんハウスを建てていっていただく。基幹作物から果樹園芸に、あるいは野菜づくりにというふうな大きな流れの中で、そうした優先施策といいますか、誘因施策というか、インセンティブをつけてそちらに誘導していくというようなことを目標にして、稼げる農業を目指すというのが我々の政策目標です。

○2番（大川徹也君）

産業課長や町長の御答弁を伺うと、農業の振興、旗振りを町が行うということなのかなと思ったんですが、ちなみに現在、いろんな農家さんがハウスをつくってハウスなど、そういう建物をつくってやってらっしゃいますけど、そういったところというのはずっと町は何らかの名目で補助というのは行ってこられたんですか。

○産業課長（日高泰明君）

議員御質問のところ、施設による、日々生産されているところについてかと思うところで答弁させていただきます。

そういった、今ハウス等での園芸用の作物につきましては、国の交付金等がございまして、国の施策によるところの産地交付金というメニューの中で反当たり幾らというふうなところで助成をただいま出しているところがございます。

以上でございます。

○2番（大川徹也君）

私はその辺の何というんですかね、平等性というんでしょうか、そういったところをちょっと心配をしていたので、さっきのほうの質問をしたんですね。俺たちは、例えば、自分で自腹でこんな施設をつくって頑張ったけど、今回の分はいいなあと思う人も中にはいるでしょうからと思ひまして。

ちなみに、今回の園芸施設なので、ブドウにこだわらず、イチゴなど、いろいろいいですよということだったんですが、4棟あるということで、それは交付要綱、交付金要綱というのをつくられると思うんですが、その辺、4、ばらばらになってもいいんですか。例えば、1棟はイチゴをつくりたい、もう一棟はブドウをつくりたいとか、どういうぐあいに想定しておられますか。

○産業課長（日高泰明君）

議員御質問のところですけども、ただいま交付要綱の中で検討しておりますのは、やはり選定委員会の中で、事業については選定委員会の中でその事業の内容等を選定するところでございますが、現段階、制定の案のところの内容について考えるところでは、この予算化しておりますのは、標準的な園芸作物について、このくらいの規模かなというふうなところで予算をしていますところ、また、施設の取り組みをしたいというふうなところであっても、それにつきましては選定委員会の中で話をしていきたいというふうなところで考えておるところでございます。

○2番（大川徹也君）

単に農業振興であれば、いろんな形が考えられると思います。1棟をブドウにして、1棟をイチゴにして、あと2棟はいろいろとか。ただ、町として特別な何かお考えがあるのかなというのが疑問にありましたので、ちょっと尋ねたんですけど、まだそれははっきりしていない、今後考えていくということみたいですね。

そうすると、この40,370千円のこの金額の中に、この2,000平方メートル分とありますが、土地代も含まれているんですか。

○産業課長（日高泰明君）

この予算の中は、園芸施設のみのもので考えておるところでございます、土地につきましてはこの対象としていないところでございます。

以上です。

○2番（大川徹也君）

そうすると、建物を建てるということは地面が、土地があるということでしょうから、土地の購入に関する予算の計上は今回なされていないみたいですけど、その辺はどう考えてあるんですか。

○産業課長（日高泰明君）

議員御質問のところで、耕作する土地というふうなところでございますが、土地につきましてはもちろん事業をなさる方が確保するところで考えておるところでございます。他の事業等を見ましても、この施設園芸の施設の補助金というふうなところで、土地代まで入っているところはちょっと見受けられないところで、こういうところが標準的な事業ではないかというふうな考えでこの事業を立案しているところでございます。

以上です。

○2番（大川徹也君）

土地は、とにかく自分たちで確保してくださいと。そうすれば園芸をするに当たってこういう町としての施策としてこういう交付金をこの要綱に満たれば出しますよということですね。

それで、他の同僚議員の質疑のやりとりの中で、11月中旬ぐらいまでには決定するということでしたけれど、今9月中旬過ぎまして、そんな早く決まるものなのかなというのが正直あるんですが、何かしらそういう見込みがあるんですか、候補者の。

○町長（武廣勇平君）

スケジュールについてお尋ねがあつて、今、事務局案を11月ということをおも知らなかったんですが、伝わったようなところがありまして、要綱でいつの時期から行うかということについては今後対応をしっかりと決めていきたいと思ひます。

○2番（大川徹也君）

今回はこのふるさと産業活性化事業については農業振興ということで理解をしていますけれども、今後も同じような同じ事業、こういうのは継続して検討しておられるのでしょうか。

○町長（武廣勇平君）

今後もこうした御要望の申請が出てくる数に応じて考えていきたいというふうにおもっています。

何で迫ったこの時期に補正で上げているかというお尋ねについて答弁漏れがあつたので、申し上げますと、何か戦法があるということではなく、基本的には6月に本町ではふるさと納税で返礼品の商品がぐっと少なくなりました。やはり基本的にはそうした果樹についてもしっかりと町内で産地化していきたいというお声を多々いただいています。できれば町内の、本当言うと、認定農家さんじゃない方まで含めて、自由に皆さんが、例えば、ブドウ園をお

持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、そうした方も対象にしていきたいという思いがありますが、今、議会とのやりとりの中で認定農家を限定するようというお示しもありましたので、その点は認定農家を対象にしていきたいと考えています。

○2番（大川徹也君）

これは農業振興をして、それがふるさと納税の返礼品としても期待しているということですね。非常に大いに結構なことだと思います。農業も大変ですから、こういう町の補助があると助かると思うんですけども、それと同時に、そういう町の産業ですね、全般にわたってですが、肥育農家もありますし、こういう園芸農家もありますし、稲作農家や大豆農家とか、野菜農家もいろいろありますが、いろんなところにぜひ御配慮いただいて、こういう振興策をぜひ続けていただけたらと思います。

これで私の質問は終わります。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○8番（大川隆城君）

同じ12ページの一番下、農林水産業費の林業振興費で九千部林道関係の工事費が上がっておりますが、これは今回の雨前に予算措置されておりましたわけですが、その後、8月の豪雨で、またそのほかにも九千部林道関係で被害地ができたようにお聞きしておりました。それも当然、復旧改修工事をせんといけんだらうと思いますので、当然、今回予算措置をされてあるところは当然取りかかれますでしょうが、加えて今度新しくできたところも、同時進行的にされるものか、その辺やっぱり急がなきゃろうというのが思われるけんですね、その辺の考えはどうか。例えば、同じ時期にやるとするならば、予備費でというようなことでのお考えなのか、それとももう少し時間を後にずらしてということが出来るものなのか、その辺ちょっとお聞かせいただきたいと思いますが。

○副町長（森 悟君）

今お尋ねの、今回の7月、そして8月災害の復旧箇所についての御心配、対応工事の内容かなと聞いておりました。

予算編成時期等々の関係で、今、上げておりますものは、たしか7月後に申請したのかなと思います。その後、鎮西山等も幾つか破損箇所がございまして、今、国のほうに要望申請をしております。その前に災害査定という国の機関のこの工事については補助の対象事業だというのがございますので、その今調整期間中がございます。国のほうも早急に、県を通じて動いていくということを聞き及んでおりますので、災害につきましては今後動きがございまして、それはその都度、またお諮りを差し上げたいと感じております。至急、復旧をするべきところもございますので、山の一部のり面崩壊とか数箇所ございますので、そのように御理解いただければと思います。

以上でございます。（「はい、わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○3番（原 直弘君）

9ページ、一番下の中心市街地活性化事業用地購入費の件なんですけど、先ほど購入については理解をいたしましたけど、今度取得後の、多分あそこは文化財とかの調査が必要になってくるかと思うんですけど、それについて、担当の文化財課とどのようなお話し合いで進んでいかれるのかというのをお聞きしたいと思います。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

その辺につきましても、文化課のほうとは、また正式にはないんですけど、打診レベルで私どものほうからそういう話を差し上げているところではございました。所有権移転後とか、議会のほうにもまた上程することになるかと思えますけど、その後に所有権移転を差し上げた後に試掘等が行けるような形でできればなというふうには考えているところではあるんですけども、その詰め作業につきましては、また今後の予定等も考えまして、文化課のほうといろいろ協議をさせていただこうということでお話をさせていただいたところではございます。

○3番（原 直弘君）

先ほど担当課と打ち合わせしているということでお伺いしたんですけど、今、スケジュールとしては移転後ということでの話だったんですけど、実際、歴史的価値の分が出てくるとなると、やっぱり今、事務手続がスケジュールよりも若干おくらしている感じなんですけど、それによってまたおくれるという可能性があるんじゃないかというのが懸念材料なんですよね。よって、移転後じゃなくて、地権者さんとの話になると思うんですけど、移転を待たずに試掘等ができるものならやっていったほうが今後のスケジュール的にもいいんじゃないかと思うんですけど、その考えはいかがでしょうか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

そのあたり、地権者のほうにも一応過去にそういったこととお話ししたことはございます。その際に、現状であれば、地権者の同意があればできるというようなこともございますので、そういったところも含みをいれたところで水を向けてみたことは過去でございます。ただ、具体的にいつの段階でどうするという点に関しては、正直、こちらのほうでも移転後がよろしいのかなというふうなニュアンスがあったんで、私もそのように発言をいたしましたけれども、早目にできるのであれば、そういった形でとることもこちらとしてはやぶさかではございませんので、そういう場合においては文化課のほうとも早目に協議をしながら、いろいろ対応策を練っていきなというふうに考えております。

○3番（原 直弘君）

本当、この事業に関しては、迅速かつ慎重に進んでいただければと思います。

これで、私の質問を終わります。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○5番（田中静雄君）

14ページの教育費ですけれども、この真ん中ほどの委託料で、小学校正門等改修工事測量いろいろありますけれども、これはどのような改修をされる予定なのか、ちょっと教えてください。

○教育委員会事務局長（吉田 淳君）

私のほうからは、田中議員の御質問でございます、14ページ、款の10. 教育費、項の1. 教育総務費、目の6. 施設整備費、節の13. 委託料でございます。小学校の正門等改修工事測量・設計業務委託料として1,782千円をお願いするものでございます。これにつきましては、小学校の校門の前、町道坊所南北線が拡幅工事を来年以降に計画をされてございます。これを契機に、校門の急傾斜を解消し、児童の飛び出しや駆け出しによる危険性を解消すべく、小学校校門を再整備したいというふうに計画をしております。

そこで、小学校校門の改修工事に際しての現地の測量、設計にかかる委託費について予算措置をお願いしているところでございます。

校門をなだらかに、今、ちょっと急傾斜でございまして、子供たち、特に1年生などは途中でとまり切らんで、ととんと飛び出したりという危険性を含んでございます。そういうところを解消するとともに、広く小学校の校門として再整備したいというふうに考えてございます。

以上です。

○5番（田中静雄君）

これはあくまでも子供たちの安全を確保するという意味合いからそういう工事の測量が予算化されてきたと思いますけれども、これはいいことですね。

それで、私もいつも例えば、子供を正門から——私の子供じゃないですけれども、正門から車で送っていくときがありますけれども、やっぱり狭いですね。それで、子供たちをおろすんでも、道路が狭い関係で、何かよう用心せんと、後ろから車が来よったりいろいろするもんですから、特に危ないな、それで子供の登下校でも非常に危ないなと自分関心を持っておりましたので、できたら、まあ1台ぐらいは車が横寄りでも余裕を持ってとめられるような大々的な改造もどうだろうか自分には思っています。

だけれども、それと同時に、校門前の道路の排水路の整備というのはいつごろになるんでしょうかね。認定こども園からずっと南北線の工事というのは。

○副町長（森 悟君）

今お尋ねの、小学校の正門の前の坊所南北線の改良工事でございますけれども、建設課のほうで今、実施設計を行っております、それを完了してございます。来年度につきましては、それをしっかり工事として対応すると。全線長うございますので、部分的に、特に生徒、児童の安全はきちり守る、そういう観点から重点的に小学校の前は急ぎたいと、そのような計画で進んでございます。（「わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○8番（大川隆城君）

12ページお願いします。

この農林水産業費の農業振興費の中で14節の使用料及び賃借料で、公用車のリース料が上がっていますが、これはその中身をちょっと説明ください。

○産業課長（日高泰明君）

12ページ、款6．農林水産業費、項1．農業費、目3．農業振興費、14節の使用料及び賃借料の中の公用車リース料につきましては、現在、産業課のほうで配置しております集落支援員関係のところで現場の作業、現場に赴くときに車を使うというふうなところで、今回、公用車リース料として公用車の借り上げについて予算をお願いしているところでございます。以上でございます。

○議長（中山五雄君）

お諮りいたします。議案審議の途中でございますが、ここで休憩をしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

異議なしと認めます。したがって、1時まで休憩。

午後0時 休憩

午後1時 再開

○議長（中山五雄君）

再開いたします。

午前中に引き続きまして、議案審議を再開いたします。

議案第49号の質疑からいきたいと思います。質疑はありませんか。

○8番（大川隆城君）

14ページをお願いします。

14ページの一番上、土木費の目の公園費の13節、委託料、この説明をひとつお願いします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

14ページの土木費の都市計画費、2．公園費の13．委託料、都市公園費用便益比算定委託

料の件かというふうにお見受けいたします。

これは鎮西山の再整備に関する補助金のお手上げを今しております。これは後に添付資料として必要になるものを作成しようということで今回予算計上しております。一般的にこれはB/Cと言われるもので、コスト・ベネフィット・アナライズというものなんですけれども、費用の便益分析を行いまして、事業が社会に貢献する程度を分析する手法のことを申します。これは政府等の基準として定めている評価方法のことをございまして、これを今後申請の中に添付資料として義務づけられているものですので、今回、予算で計上差し上げて、この分析のほうを行っていかうというものでございます。

以上です。（「わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○7番（吉富 隆君）

説明欄の9ページ、目の18. 中心市街地活性化事業費、財源につきましては特定財源というふうになっておるようでございます。節の17. 公有財産購入費、中心市街地活性化事業用地購入費200,513千円ですかね、これが上程されております。

そこで、私はお尋ねでございますが、今までの議会の中での流れにつきましては、総合戦略の中、また、市街化地域問題等々について流れが今まであってまいりました。一般質問でも別に市街化地域の問題について質問させていただいておりますが、同僚議員からも同じ質問が出てまいりました、午前中に。そうしますと、イオンの跡地の問題が出てまいりました。私は、イオンの跡地と中心市街化地域の問題とは別に考えておった次第でございます。と申し上げますのが、イオンを核として中心市街地活性化事業ということがタイトルで行政のほうから御説明をいただいた経緯がございます。（「そんなことないよ」と呼ぶ者あり）そうしますと、私はいよいよこの中心市街地の活性化事業がスタートラインについたのではなからうかなというふうに思っております。

そういう中で、じゃ、土地を購入して何をやるの、どういう事業展開を行政が考えておられるのかですね、これをちょっと御説明していただく前に、土地を購入する場所、広さ、これを図示で示していただければ本当にわかりやすいなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

対象の用地につきましては3筆となります。1つがですね地番と地籍、それと地目を申し上げますけれども、まず大字坊所1550番3、宅地でございます。これが9,293.37平米。それと大字坊所1550番36、雑種地、192.00平米。それともう1筆なんですけれども、大字坊所1550番4、これは雑種地でございます。筆としては1万7,997平米、公簿上でございますけれども、そのうち、隣接します遊戯店の駐車場用地として使用しているところがございます。

ですので、その用地を除いたところの1万5,402平米が対象ということで考えてございます。

以上でございます。

○7番（吉富 隆君）

室長さん、本当に申しわけないんですが、私の質問にお答えをいただきたいなと思います。場所を知るために図示でお示しはできないですかというお願いをしたので、できないならできないということをお尋ねしているんですから。

○町長（武廣勇平君）

前、全協で出したと思いますけどね、その資料は。もう一度つくれということなら、休憩をお願いしたいというふうになります。もう一度つくった方がいいでしょうか。

○7番（吉富 隆君）

私は冒頭申し上げたとおり、いよいよこの案件につきましてはスタートラインに来たなと思っております。だとするならば、こういった図示できちっとした形をお願いしたいのと、どの広さあるのかなと広さがですね。3筆ある中で、早口で言われたので、わかりづらかった。いま一度できればお願いしたい。

○町長（武廣勇平君）

資料の用意のため、暫時休憩をお願いいたします。

○議長（中山五雄君）

今、執行部のほうから暫時休憩をとということでお願いが出ておりますが、いかがいたしましょうか。（「議長、異議あり」「何でだよ」と呼ぶ者あり）どうぞ、異議の理由を教えてください。

○7番（吉富 隆君）

町長は一般質問でも申されたとおりの、いろいろな問題については本議会でやりましょうという御答弁をいただいておりますので、暫時休憩というのはいかななものかなと思っております。

なぜならばですね……（「どうしろって言うんですか」と呼ぶ者あり）何ですか。（「資料を求められて、暫時休憩を求めて、何で資料を入手する時間をとっちゃだめなんですか」と呼ぶ者あり）いやいや、資料を求めておりますが、資料を出せるのか、出せないか、質問しているんですから。

だから、私は何もこれを反対するとか賛成するとかいうことは一切申しておりません。いよいよスタートラインについた。流れ的には道の駅、それに付随するものをつくりたいというのが町長の意向であったんですよ。一般質問でも申し上げてきました。楽しみにしていますよ。よその町にない道の駅をつくるというのが町長の構想であったのでね。だから、やっぱり順序よく質問していきたいと思っておりますので、それにお答えをしていただけ

れば、時間が短縮できるのではなかろうかと思うので、異議を申し出たところでございます。

○町長（武廣勇平君）

説明がちょっと不足しておりました。資料提出のための暫時休憩をお願いしたいと思います。

○議長（中山五雄君）

執行部のほうから資料を提出するための暫時休憩ということで要望が出ております。いかがいたしましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

異議なしと認めます。よって、暫時休憩をしたいと思います。休憩。

午後 1 時 9 分 休憩

午後 1 時 25 分 再開

○議長（中山五雄君）

再開いたします。

休憩前に引き続きまして、議案審議を再開いたします。

まず、執行部の答弁のほうからよろしくお願いします。

○町長（武廣勇平君）

お尋ねの土地について、ただいま資料をもとに御説明をさせていただきたいと思います。

平米数については後ほど創生室長のほうから答弁させますが、今回、取得を目指す土地につきましても、お手元の資料のブルーの部分とグリーンの部分になります。どうぞよろしくお願いたします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

先ほど町長から御説明がございましたように、このグリーンのところとブルーの部分、こちらに関しての取得を目指すものでございますけれども、再度申し上げます。

先ほどの質問の中でもありましたけれども、緑の部分の土地ですね、こちらにつきましては大字坊所1550番3、宅地の9,293.37平米と、こちらの管理用道路のほうにもう1筆ございまして、1550番の36、これは192平米の雑種地がございます。これを合計したところで緑の枠で囲っているところがございます。ブルーのところにつきましては、大字坊所1550番4、対象面積としては雑種地の1万7,997平米なのですが、うち近接いたします遊戯店の駐車場用地として使用している土地がございますので、そちらを除きます1万5,402平米が購入対象という形になります。その1万5,402平米がブルーで囲った枠ということで御承知いただければというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑ありませんか。

○7番（吉富 隆君）

大変時間をとらせてまして申しわけございませんでした。実は、确实なところの土地を知りたかったので、資料をお願いしたところでございます。御理解をいただきたいと思います。

大変ここに私が今まで議会の流れからいきますと、イオンを核とした市街化地域再開発というのがタイトルであったと記憶しております。そこには道の駅等々を含めたところにいろいろな施設をつくるということは行政のほうから報告を受けておりました。私が何を聞きたいかということ、同僚議員も午前中、いろいろと質問がございましたが、イオンの跡地とこの土地とあわせて、今後、町としては計画をしていきますよということで理解してよろしいですか。

○町長（武廣勇平君）

今後、改めて申すまでもなく、これまでも申し上げてまいりました。よって、これは全員協議会でもお示しして、資料も配付させていただいております。おっしゃるとおりでございます。

○7番（吉富 隆君）

町長から今御説明がございましたけれども、そう詳しく我々は説明を聞いた覚えはございません。（「冗談じゃないよ」と呼ぶ者あり）いや、聞いていませんよ。（「全員協議会を調べてください」と呼ぶ者あり）この案件について全協というのは、何というのですか、このイオンの跡地の問題で図示をつけて説明をいただいております。その資料はございます。ただ、市街化地域と別に僕は考えていたんですよ。（「そんなあべこべな質問……」と呼ぶ者あり）いや、あべこべじゃないじゃないですか。（「あべこべだよ」と呼ぶ者あり）違うでしょうもん。イオンがあったなら、今現在、営業をされていたらどうされますか、そんなら。（「当たり前じゃないか……」と呼ぶ者あり）違うじゃないですか。イオンの撤退というのは去年の5月なんですよ。（「あのね、おかしいよ」と呼ぶ者あり）去年の5月でしょうもん、撤退の……（「冗談じゃないよ、本当に」と呼ぶ者あり）何で冗談じゃなかですか。

○議長（中山五雄君）

ちょっと待ってください。

○7番（吉富 隆君）

いや、議長ね、イオンの撤退の時期は平成30年の5月であったと僕は思っております。そうでしょう、違いますかね。

○町長（武廣勇平君）

撤退の時期の前からイオンとの協議をしていたということをおっしゃっているんですか、この中心市街地で。撤退してから始まった事業ですよ。その後に全員協議会をして、買い増しすることもお伝えしていたと。PFI上は民間に買わせるというような話の中で進んでい

ましたが、先ほどのやりとりの中で説明した。時系列順にしゃべっていただきたいと思いません。

○7番（吉富 隆君）

私が知りたいのはね、イオンの撤退時期が去年の5月であった、これは間違っていないと僕は思っています。その前に、イオンを核とした中心市街化地域の開発ということが前に議論があってきたわけね。その説明を僕は受けたと言いきるじゃないですか、ですね。だから、私が知りたいのは、去年の5月にイオンが撤退するということが報道をされて知ったわけですよ、新聞でね。だから、これと合わせたところの6.5ヘクタールの中で今度事業展開をされるんですかと聞きよる。

○町長（武廣勇平君）

もう何度も言っています。それはやるというふうにかねてから申し上げてまいりましたし、議事録で何月何日に言ったか調べて、後ほどお伝えしてもいいですが、中心市街地事業をやる、イオン跡地に道の駅であったり、総合戦略のさまざまな事業を予定しているものを当てていく、これを私が名言をいたしました、この議場で。思い出してください。

○7番（吉富 隆君）

町長が言われるように申し上げたということで、私の記憶が乏しいので、そうやったかもしれないませんが、じゃ、私の質問にお答えをいただきたいのは、この6.5ヘクタールで町として事業展開を進めていきますかというお尋ねをしているんですから。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

この地形で事業を進めていくというふうに考えてございます。

以上です。

○7番（吉富 隆君）

そうしますと、この6.5ヘクタールの中で事業展開等々につきましては、何ら我々には、何をこの6.5ヘクタールの中で事業展開をされるのかですね、それが見えてこない。そうでしょう、見えてこない。私は何も反対するとか、そういうことじゃないですよ。議会人の一人として、やっぱりある程度の情報提供はいただきたい。そうしないと、この土地を買う、買わんの問題等々大きな問題が出てくる、時間的に問題もある。やはり町の双肩にかかるような大型事業なんですよ、事案が。同僚議員も質問をされておりましたが、町民の皆さんからのお尋ねはかなりあります。我々はイオンの跡地についてはまだまだ町のものではないので、あればちゃんと行政のほうから報告があるでしょうという回答しかできないんですよ。

そういうことを勘案すると、お互いの立場というのはお互いが理解をし合って先に進めていけば、こういう問題は起きないと思うんですよ。（発言する者あり）いや、これは大きな問題ですよ、うちの町にとってですね。だから、そういったことが情報の提供というのは、最少限度やっぱり議会としても知る必要があるだろう。行政と違う立場にあるので、私たち

はやっぱりこういう本議会の中でお尋ねをして回答をいただいて、すらごとをやっぱり町民の皆さんに報告するわけにはいきませんので、お尋ねをしているところですので、その辺については御理解をいただきたいと思っております。何をされるのかですね。

例えばですよ、こういう構想でいきますと、決定じゃございませんよという話であっても、じゃ、大体総予算はどのくらいかかるだろうか。町からの持ち出しの金はどうなんだろうか、債務負担がどのくらい出るだろうかということぐらひは秘密会でもいいんですが、やっぱり議会として知るべき案件であろうと思います。なかなか難しい問題とはいえども、やっぱり我々は知る権利があるだろうというふうに思っております。ぜひともそういったことを協議していただければ、いいものができ上がるだろうと思います。

私が個人的に考えをするとするならば、サティが上峰町に来たときには、大型店舗の法律改正した時期やったんですね。それから、二十数年間たって、サティからイオンに変わって、平成30年の5月に店じまいをされたということなんですよ。そうすると、同僚議員も言っていたんだけど、やはりそこに我々は素人ながらも不安が出てきます。だから、町がやろうとしていることは、大枠でもいいから、私たちに情報提供をお願いしたいというのが趣旨の私の意見なんです。それができないと。

3月の定例会のときも同僚議員からいろいろな質問がございました。こういうことはできないか、こういうことはできないか、僕も案件を出しました。できないとはっきり言われましたもんね。そうでしょう。室長さんはそう言われました。そうなのと。僕もアイデアを出しました。それはお断りはございませんでした。だから、いろいろ議会の皆さんの意見等々もこの中に埋め込んでいく問題であろうと僕は思っています。

同僚議員が一般質問の中で、きのうやったですか、一般質問の中でも出ていたように、町長はきちっとした答弁をされていますが、いろいろの問題、ここの総合施設の中にしたらどうかという意見もありますが、それはこうですよと意見を言っていたので、それはもう理解をしていますよ。しかし、これだけの大きな事業をやるのに、何をするのか、どれだけの費用がかかるのか、町がどのぐらひの負担が必要なのかと、大枠でも知りたい。そういうことはできないだろうかというお願いをしているんですよ、行政に。こうしなさいと僕は言っていないから、そこら辺について町長どうでしょうか。

○町長（武廣勇平君）

民間の土地の上に建てることで、うちとしてもリスクがあり、絵を描けないという意味でも重たいと、この土地はと事業者が言われている。民地ですから。

今おっしゃったのは、設計も含めて、大体大枠の絵をつくって押さえるなら、この用地取得には賛成されるというふうに聞こえました。逆じゃないですか。土地を押さえて、まず事業者が安定して、そこに建屋、設計するような状況に進んでいくんだと思いますよ。

また、先ほどから新人議員さんは今回、全員協議会には入っておられないと思いますけれ

ども、以前私たちは全員協議会をしているじゃないですか。スケジュールも示して、住民からの要望が多かった機能、そして概略を説明していますよ。それを今さら説明してないかのような言い方は心外です。私としては——吉富議員は少なくとも記憶が薄れているなら、そうおっしゃればいいけど、こうやって中心市街地活性化の事業ということで平成31年2月21日にお伝えしています。（発言する者あり）11月だそうです。11月に説明しています。

だから、それ以上の情報は、今、本当に詰め協議を行っていて、もう毎日毎日変化するような状況です。それはある程度節目のときにしかお伝えできないということは御理解いただきたいが、その節目のときをなるべく早く迎えて、その後は議員さんと住民の皆様方というろいろ話し合いながら、どういうふうな工事でいくとか、いろんなことを考えていくタイミングが来ますので、それを何か先ほどから全く説明がないような言い方をされるのは心外です。

○7番（吉富 隆君）

私は逆に町長の今の答弁に心外ですよ。（「何でだよ」と呼ぶ者あり）なぜならばね、これだけの大型な事業をやろうとされる中で、じゃ、総枠何をするのか、費用がどのくらいかかるのか、債務負担が幾らなのか（「本当冗談じゃないよ」と呼ぶ者あり）そんなことの説明は一回も聞いた覚えはございませんよ。（「出せるわけないだろう」と呼ぶ者あり）流れの中で——僕は何を言いたいかというと、ある程度の大枠での説明を、こういう事業をこの6.5ヘクタールの中でやっていきたい。しかし、これは変わっていきます、相手がおることですからね。町が運営するわけじゃないでしょう。だから、PFIを使うとかいう話だろうと僕は思います。あくまでも僕は推測ですが、そうだろうとしか思えない。

やっぱり時代の中で何を想定されておるのかということで、私の考え方は変わっていくだろうと思います。私も議員の一人として、いや、こういうことをやるんだ、すばらしいねと、これは大いにやってくれということも言えます。私は町長が言われるように道の駅をつくる時には、いろいろな業者を入れて説明を受けました。

○議長（中山五雄君）

吉富議員、ちょっとよかですか。もう少し質問は簡潔に。

○7番（吉富 隆君）

いやいや、これは議長さん、制約は無理ですよ。（「長いよ」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ちょっと待ってください。今後何をするのか、どういう形でやるのか、どういうことをするのかということなら、その部分を聞いて……

○7番（吉富 隆君）

はい、わかりました。

○議長（中山五雄君）

前からの流れをずっと延々に言われるのはね。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

○7番（吉富 隆君）

議長ね、町長さんのほうから大枠で……

○議長（中山五雄君）

言わなくちゃいけないところは言って構いません。

○7番（吉富 隆君）

はい。

○議長（中山五雄君）

でも、余りにも長過ぎるから、その辺は少し注意していただきたいと。

○7番（吉富 隆君）

いやいや、わかりやすくしないとね、今までの流れというものがあるのでね。そりゃ、議長が言うとおりの、そういう縛りをされるなら、そういうふうにさせていただきます。

じゃ、最初に申し上げたことについて、大枠できるのか、できないのか、お尋ねをさせていただきます。

○町長（武廣勇平君）

公共事業と勘違いされているようで、我々が仕様書、設計をつくって、大体総額費用が出て、そこから事業者等、発注をかけるというのではないPFI事業ですから、まず業者選定をして、企画提案を受けて、その中で事業費が出てきます。今、その競争的対話をしている状況です。よって、対話終了後、選定企業が決めれば、そこからは、いろんな議会の皆様方にも御披露する、そういう場面が出てくると思います。足らんとところは補足を創生室長がいたします。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

補足ということですので、あれですけれども、PFI事業の基本的な概念といたしましては性能発注になりますので、性能発注をした段階で仕様発注とは違うということをひとまずちょっと申し添えておきたいというふうに考えております。あとはもう町長が申されたとおりのかというような御認識でよろしいかというふうに思っております。

以上です。

○7番（吉富 隆君）

私は町が運営するんじゃなくて、PFI方式を使ってやられるんでしょと、こうお尋ねしているんですから、私が間違っていれば間違っているよと言っていただければ修正もかけます。そうでしょう。そうしないと、町が運営するということはなかなか不可能ですよ。しかしながら、軸は、構想的なものは町がやるんですよ、業者と話しながらね。私は業者と話をしていることを説明くださいと言っているわけじゃございません。それにはやっぱり言えないこともあるだろうと思いますのでね。

だから、町の考えとして、この6,500平米の中でどんなことをやられるんだろうかと、やっぱり誰でも思うでしょう。それが今の時期では言えないよということであれば、それでいいんじゃないですか。言えない理由というのが行政にあるでしょう。しかし、余りにもボリュームの大きいことをやろうとしているので、業者がするんじゃない、軸は行政だと僕は思っています。事業展開については民間でしょうけどね。私はそういう考えを持っておりまして、非常に今後、町の双肩にかかる大きな事業だと位置づけをしておるものですから、私はそういう考えを持っておりますので、できれば早目に説明はするということでございますが。

そうしますと、質問でございますが、イオンの跡地も含めたところの6,500平方メートルですか、その中において、まだ町のものではないですよ、イオンの跡地については。ところが、ここのグリーンと青色のところは、今、上程される金額で書いておるということの上程なんですよ。そうしますと、含めたところの6.5ヘクタールの中にイオンの跡地が入ってきますよね。イオンの跡地はまだ上峰町のとじゃないから、事業展開を進めるにも進めにくい部分が行政にあるだろうと、だから、言えないだろうという考え方も僕は思うんですが、そこで質問ですが、イオンの跡地の無償譲渡の話が出ておりましたが、大体けじめとして、いつごろできるか、わかればですよ、いろいろ問題あるだろうから、わかれば教えていただきたい。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

イオン九州株式会社との話につきましても、私どもずっと詰めている状況でございます。

時期的なことを今、明示するというのは、ちょっと私どもの立場では非常に難しい状況かなというふうに思っております。というのも、イオン九州株式会社内におきましても、組織内での取締役会等々の会議がございますので、そういったところの段階を経た上での話になってくるだろうというふうに思っておりますので、私どもだけの思い込みで申し上げるわけにはいかないかなというふうに考えております。

○7番（吉富 隆君）

室長の御答弁では、今のところ、答弁はできないよということなんですよね。うん、それはできないかもわかりませんが、相手があることですからね。しかしながら、我々は3月、6月の定例会の中でこの問題は若干出てきました、説明もいただきました。恐らく9月の定例会に上程できるのではなかろうかというふうに期待をしておりました。若干ずれ込んでいるということではありますが、かなり大型事業なので、これは1年、2年おくれる可能性だってあってもおかしくは僕はないと思います。早急にできる話だろうかなと疑問を持ちますよね。その時点でやっぱり無償譲渡をいただいた、そして土地を買収した、その時点にならないと、何をするというのは、お話しはできないということで理解していいですか。何を、どのくらいの費用がかかる、債務負担が幾ら、町の繰り出す金が幾らかかるのかというのはできな

いということでも理解していいですか。

○まち・ひと・しごと創生室長（河上昌弘君）

事業者からの提案内容に基づいて、競争的対話ということをしてしておりますけれども、先ほど町長が申し上げたとおり、具体的に優先契約事業者として決まり、そして基本協定締結、このあたりでは最終的に議会にも上程する必要がございますので、皆様方にもお話をすることは可能かというふうに思っておりますが、今の対話の状況の中では中身的に、額も含め、いろいろ上下するところがございます。要は、バッファの部分はかなりあるということがございますので、今の状況で幾らというような状況を申し上げても、また変わる可能性というのは当然ございます。ですので、それ自体を今申し上げること自体に、さして意味があるかどうかということも含めて、私どもはちょっと思っているところでございます。申しわけございません。

○7番（吉富 隆君）

執行部の考えはそうだろうと思いますよ。しかし、議会の立場というのも理解していただきたいよ。ね、そうでしょう。本当に無償譲渡できなかったらどうするのという話もありますから。そうですよ、現実的にあります。本当にただでくれるのかいという話もございますのでね、それはぜひとも無償譲渡にこぎつけていただきたいなと思っています。そうしないと、大きな事業をするには、6.5ヘクタールの中で事業展開がされるということですので、これはそろわないとできないですよ、無償譲渡まで含めたところで。6.5ヘクタールにならないので。その時期はまだわからないということなんですよ、いろいろ相手さんがおること。そうしないと、やっぱり1年でもおくれるのかなという感じがするんですがね。さっと無償譲渡をして、これ、条件がつかないとするならばいいけど、イオンさんもやっぱり条件がつくだらう、つけるであろうというふうに思います。いろいろ解体業等の問題も同僚議員が言っておられたんですが、そういうことじゃなくて、やっぱり6.5ヘクタールの敷地を行政としては確保したいということだろうと思います。その中で事業展開を進めていくという流れになっていきますと。その中でも変化は出ますよ、これだけ大きい事業ですから。当たり前のことですよ。だから、そういうことは理解しておりますが、本当にこの6.5ヘクタールが町の所有地ということになってほしいなと思います。

ただただ、町長からお叱りを受けたんですが、私はイオンを核とした市街地の開発について、そこに道の駅をつくるということで僕は考えていたんですよ。道の駅をつくるにも、それにふくするものがあるという話は聞いていましたが、合体してやるということで僕も理解をしているんですが、やはりこの問題というのはやっぱりなかなか難しい問題があるので、やはり進捗が進むにつれて議会との情報提供等々については、秘密会でも何でもいいから議長と相談されて、全協でも開いていただければなと思いますが、できるでしょうか。

○町長（武廣勇平君）

これは議長さんと御協議の上ですね、私はどうしても申し上げたいのは、やはり開かれた場で協議をする必要があると。こういうセンシティブな話題でありますので、本議会を中心とした、その中で全員協議会、調整の場としてぜひ活用していくということについては、議長さんとの協議の上での話ですけれども、すごくいい機会になるのではないかとこのように考えてございます。

○7番（吉富 隆君）

町長の御指摘のように、開かれた場であるということは議会だろうと思いますので、議会の中で議論はまたさせていただきますが、その調整として全協なりもやっていくよと、必要に応じてはということと理解してよろしいですか。

○町長（武廣勇平君）

事前審査の禁止にならない全員協議会、すなわち、この本議会を中心とした開かれた場で住民に見える形での協議が私は一番望ましいし、このやりとりこそが大事だと思います。このやりとりの中で、我々も答弁力が必要だし、質問力も必要だと思います。この中で、見えない視点をいろんな議員様方からの多角的な視点で指摘をいただいて、それで見えてくるところもあると思いますので、ぜひその点は皆様方にも鋭い御指摘、あるいは私どもも真摯に協議に臨んでいきたいと思っております。

○7番（吉富 隆君）

ぜひともそうしていただきたいなと思います。本議会が一番ベターなんですよね。しかし、やっぱり不安もあるんですよ、不安。時代の流れが違い過ぎます。20年のロングスパンの中で大きな変化は必ず来るであろうと素人ながら予測する中で、本当に難しい問題なんですよね。難しいなと思いますので、臨時議会でも結構でございますので、ぜひともそういったことをしていただくことをお約束していただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○町長（武廣勇平君）

今後、場合によっては臨時的きかいがあるようでありますので、その点はお約束できると思います。

○7番（吉富 隆君）

お互いにエキサイトして、町長もエキサイト、私もちょっとエキサイトしましたけれども、これが議論の場である、議会であると僕は思っていますので、今後についてもなるべくエキサイトしないように質問のやり方も勉強させていただければなと思っております。ぜひともこういったことをですね、やっぱり町民の皆さんに我々はお知らせする義務がある、その辺に行政と議会の違いというのは御理解をいただかないとね。町長が腹を立てられるごとと真剣にやっておられるねということも理解はしますけどね、立場が違いますので、今後ともよろしく願いをし、この質問を終わらせていただきます。

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑はありませんか。

○8番（大川隆城君）

エキサイトしないで静かに御質問したいと思います。

15ページをお願いします。

15ページの款の10. 教育費の中の目の2. 社会教育施設費ですか、その中で節の7の賃金で臨時職員さんの関係が出ておりますが、この関係をちょっと説明をいただきたいと思いません。

○生涯学習課長（小川成弘君）

ただいま一般会計補正予算書の15ページの款の10. 教育費、項の5. 社会教育費、目の2. 社会教育施設費、節の7. 賃金の臨時職員等賃金の1,706千円についての説明につきまして、御答弁させていただきます。

生涯学習課生涯学習係におきましては、現在、係長1名にて町民センターの受付業務等の窓口業務から生涯学習全般の事務事業を行っておりましたが、8月中旬から9月末までの間、臨時職員を急遽雇用いたしまして、生涯学習全般の事務補助のほか、夏休みの子ども教室や水曜日の放課後子ども教室、土曜日のこどもの広場等々に従事しております。引き続き10月からも半年間、雇用できる予算を計上させていただいているところでございます。

また、生涯学習課では10月から町民体力づくりの体育大会や、ことし上峰町内も開催地になっております県民スポーツ大会、町民文化祭、町の体育協会50周年記念行事、成人式と例年以上に行事が続いているものですので、来年3月までの臨時職員の1名の増員を補正予算にてお願いしているものでございます。臨時職員の一月の賃金につきましては、町の規定によりまして142,100円でございます。

以上でございます。

○8番（大川隆城君）

今の件につきましてはわかりました。

次に、同じ15ページが一番下であります目の6. 町内遺跡発掘調査事業費で、これが受託事業ということで1,000千円上がってしまいましたですね。この金額で実施されるのはどの地域で、どの程度の面積でやられるのか、その辺をお知らせください。

○文化課長（中島 洋君）

款の10. 教育費、項の5. 社会教育費、目の6. 町内遺跡発掘調査事業費の、今こちらのほうに計上しております1,000千円の補正額についての御質問だと思います。こちらのほうは三上遺跡の建売分譲建設工事に伴います埋蔵文化財調査の受託事業であります。こちらのほうの面積ですけれども、調査面積300平米になっております。

以上です。（「はい、わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（中山五雄君）

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、議案第49号の質疑を終結いたします。

日程第2 議案第50号

○議長（中山五雄君）

日程第2．議案審議。

議案第50号 令和元年度上峰町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、議案第50号の質疑を終結いたします。

日程第3 議案第51号

○議長（中山五雄君）

日程第3．議案審議。

議案第51号 令和元年度上峰町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、議案第51号の質疑を終結いたします。

日程第4 議案第52号

○議長（中山五雄君）

日程第4．議案審議。

議案第52号 令和元年度上峰町土地取得特別会計補正予算（第1号）。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、議案第52号の質疑を終結いたします。

日程第5 議案第53号

○議長（中山五雄君）

日程第5．議案審議。

議案第53号 令和元年度上峰町農業集落排水特別会計補正予算（第1号）。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、議案第53号の質疑を終結いたします。

日程第6．議案第59号

○議長（中山五雄君）

日程第6．議案審議。

議案第59号 佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び同組合規約の変更について。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、議案第59号の質疑を終結いたします。

日程第7 意見書案第2号

○議長（中山五雄君）

日程第7．意見書案第2号 地方財政の充実・強化を求める意見書（案）。

これから提出者より説明をお願いいたします。

○8番（大川隆城君）

皆様こんにちは。それでは、ただいまより読み上げて、皆様方をお願いしたいと思います。

意見書案第2号

上峰町議会議長 中山五雄様

提出者 上峰町議会議員 大川隆城

地方財政の充実・強化を求める意見書（案）

上記の意見書（案）を別紙のとおり会議規則第14条の規定により提出します。

令和元年9月20日提出

地方財政の充実・強化を求める意見書（案）

地方自治体は、子育て支援策の充実と保育人材の確保、高齢化が進行する中での医療・介護などの社会保障への対応、地域交通の維持など、果たす役割が拡大する中で、人口減少対策を含む地方版総合戦略の実行やマイナンバー制度への対応、大規模災害を想定した防災・減災事業の実施など、新たな政策課題に直面している。

一方、地方公務員をはじめとした公的サービスを担う人材に限られる中で、新たなニーズへの対応と細やかな公的サービスの提供が困難となっており、人材確保を進めるとともに、これに見合う地方財政の確立をめざす必要がある。

政府の「骨太2018」では「（地方の）一般財源総額について2018年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保する」とされ、2019年度の地方財政計画でも、一般財源総額は62兆7072億円（前年比+1.0%）となり過去最高水準となった。

しかし、一般財源総額の増額分も、保育の無償化などの国の政策に対応する財源を確保した結果であり、社会保障費関連をはじめとする地方の財政需要に対応するためには、さらなる地方財政の充実・強化が求められている。

このため、2020年度の政府予算と地方財政の検討にあたっては、歳入・歳出を的確に見積もり、人的サービスとしての社会保障予算の充実と地方財政の確立をめざすことが必要である。

よって、政府に対し、以下の事項の実現を求める。

記

1. 社会保障、災害対策、環境対策、地域交通対策、人口減少対策など、増大する地方自治体の財政需要を的確に把握し、これに見合う地方一般財源総額の確保をはかること。
2. 子ども・子育て支援新制度、地域医療の確保、地域包括ケアシステムの構築、生活困窮者自立支援、介護保険制度や国民健康保険制度の見直しなど、急増する社会保障ニーズへの対応と人材を確保するための社会保障予算の確保および地方財政措置を的確に行うこと。とりわけ、保育の無償化に伴う地方負担分の財源確保を確実に確保すること。
3. 地方交付税における「トップランナー方式」の導入は、地域によって人口規模・事業規模の差異、各自治体における検討経過や民間産業の展開度合いの違いを無視して経費を算定するものであり、廃止・縮小を含めた検討を行うこと。
4. 「まち・ひと・しごと創生事業費」として確保されている1兆円について、引き続き同規模の財源確保をはかること。
5. 2020年度から始まる会計年度任用職員の処遇改善のための財源確保をはかること。
6. 森林環境譲与税の譲与基準については、地方団体と協議を進め、林業需要の高い自治体への譲与額を増大させるよう見直しを進めること。
7. 地域間の財源偏在性の是正のため、偏在性の小さい所得税・消費税を対象に国税から地方税への税源移譲を行うなど、抜本的な解決策の協議を進めること。
同時に、各種税制の廃止、減税を検討する際には、自治体財政に与える影響を十分検証した上で、代替財源の確保をはじめ、財政運営に支障が生じることがないように対応をはかること。
8. 地方交付税の財源保障機能・財政調整機能の強化をはかり、市町村合併の算定特例の終了を踏まえた新たな財政需要の把握、小規模自治体に配慮した段階補正の強化などの対策を講ずること。
9. 依然として4兆円規模の財源不足があることから、地方交付税の法定率を引き上げ、臨

時財政対策債に頼らない地方財政を確立すること。

10. 自治体の基金残高を、地方財政計画や地方交付税に反映させないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年9月20日

佐賀県上峰町議会

内閣総理大臣 安倍 晋三 様

財務大臣 麻生 太郎 様

総務大臣 高市 早苗 様

経済産業大臣 菅原 一秀 様

内閣官房長官 菅 義偉 様

内閣府特命担当大臣 西村 康稔 様

(経済財政政策担当)

内閣府特命担当大臣 北村 誠吾 様

(地方創生規制改革担当)

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長(中山五雄君)

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(中山五雄君)

ないようですので、意見書案第2号の質疑を終結いたします。

これから意見書案第2号を採決いたします。

本案について賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長(中山五雄君)

起立全員であります。よって、意見書案第2号は可決されました。

日程第8 委員長報告第2号

○議長(中山五雄君)

日程第8. 委員長報告第2号 平成30年度上峰町一般会計及び各種特別会計歳入歳出決算認定の件を一括議題といたします。

本件につきましては、決算特別委員会委員長の報告を求めます。

○決算特別委員長(寺崎太彦君)

皆さんこんにちは。私から平成30年度決算特別委員会の報告をさせていただきますが、報告書を読み上げて、私からの報告とさせていただきます。

令和元年9月20日

平成30年度決算特別委員会審査報告書

決算特別委員会

委員長 寺崎 太彦

令和元年9月6日の本会議において、本委員会に付託された議案第54号 平成30年度上峰町一般会計歳入歳出決算、議案第55号 平成30年度上峰町国民健康保険特別会計歳入歳出決算、議案第56号 平成30年度上峰町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算、議案第57号 平成30年度上峰町土地取得特別会計歳入歳出決算及び議案第58号 平成30年度上峰町農業集落排水特別会計歳入歳出決算、以上5議案の決算認定について去る9月9日、10日、11日の3日間にわたり厳正なる審査を行い、監査委員の意見書及び執行部の内容説明を聞き、慎重な審査を行った結果、適正であることを認め全員賛成をもって認定すべきものと決定いたしました。

次に審査の過程での意見及び要望等については次のとおりです。

[一般会計]

総務課

- ・防犯灯について、新設及び更新の場合は引き続きLEDへの取替えを行うこと。

税務課

- ・今後も適切な収納事務に努めること。

建設課

- ・町営住宅使用料の適切な収納事務に努めること。

産業課

- ・さかの米・麦・大豆競争力強化対策事業補助金について、PRに努めること。

まち・ひと・しごと創生室

- ・チャレンジ企業支援業務委託について、更に効果的な取り組みを検討すること。
- ・地域づくり補助金について、今後もPRに努めること。
- ・ふるさと納税寄附金について、リピート率の向上に努めること。

健康福祉課

- ・ふるさと納税寄附金（GCF分）のPRに努めること。
- ・特定健診について、引き続き受診率向上に努めること。

住民課

- ・環境衛生について、大雨時の床下浸水等の調査を実施し対応策を講じること。

教育課

- ・英語検定料補助金について、十分なPRに努めること。
- ・小学校及び中学校グラウンドについて、早急に排水対策を講じること。
- ・学校給食について、異物混入がないよう対策を講じること。
- ・カウンセリングについて、ケースバイケースであるが、問題解決のための連携を更に密に行うこと。

生涯学習課

- ・中央公園の周囲について、排水対策を検討すること。
- ・町民センターの照明器具について、LEDへの取替えを検討すること。

文化課

- ・堤土墨跡公園のトイレ改修について、関係機関と協議して検討すること。

[特別会計]

(農業集落排水特別会計)

- ・つなぎ込みのPRに努めること。
-

以上で私の報告とさせていただきます。

○議長（中山五雄君）

これより委員長の報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですので、委員長報告第2号の質疑を終結いたします。

これより議案第54号から議案第58号までの議案を一括して採決いたします。

本件に対する委員長の報告は認定すべきものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第54号から議案第58号については委員長の報告のとおり認定することに決定いたしました。

日程第9 討論・採決

○議長（中山五雄君）

日程第9. 討論・採決。

議案第44号 上峰町印鑑条例の一部を改正する条例の討論に入ります。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第44号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第44号は原案のとおり可決されました。

議案第45号 上峰町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第45号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第45号は原案のとおり可決されました。

議案第46号 上峰町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第46号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第46号は原案のとおり可決されました。

議案第47号 上峰町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例の一部を改正する条例の討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第47号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第47号は原案のとおり可決されました。

議案第48号 上峰町税条例等の一部を改正する条例の討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第48号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第48号は原案のとおり可決されました。

議案第49号 令和元年度上峰町一般会計補正予算（第3号）の討論に入ります。討論はありませんか。

○2番（大川徹也君）

議案第49号 令和元年度上峰町一般会計補正予算、これに対して反対討論をいたします。

9ページ、歳出、款2．総務費、項1．総務管理費、目18．中心市街地活性化事業費、節17．公有財産購入費、説明、中心市街地活性化事業用地購入費200,513千円についてです。

反対理由を述べます。

イオン跡地を中心とした中心市街地活性化事業に関して、私が知る情報はメディア報道で知る内容がほとんどで、議会の中では議場で議員からの質問に対して行政から部分的なテナント構想等の説明があるのみで、町の金銭的な負担額やリスクなど、肝心なところの詳細については全くの不明で、しかも、議会においては何一つ正式に決議されたものもなく、この事業が将来的にどのようなになるのかも全くの不明であります。

つまり、この2万5,000平米の土地について、今回の目的のために生かせるか、全くの不明です。そして、そもそもこの土地は再開発事業者が購入すべきものと事業者募集要綱にも記されています。そして、入ってくるはずの固定資産税収入も失われます。現在のような肝心なところが不明な状況の中で、今回のこの土地の購入2億円という多額の町費支出を認めるには議決機関の一員として私には責任がとれません。よって、この案には反対します。

以上です。

○4番（吉田 豊君）

私は賛成の立場で討論します。

私は全ての事業において同じと思いますが、物事を進める上では敷地が確定していることが前提条件となることと確信しています。理由としては、敷地が決まらない場合は、それは

空想にすぎない、さらには、敷地の上の構造物が先に決まったら、土地の所有者は価格をつり上げ交渉してくることも予想されます。それは土地の所有者の言い値で買うこととなるであろうと推測されます。

このようなことを考えると、上物が決まる前に土地を確保しておくことは必須条件であると考えます。よって、私は中心市街地開発を進めるためには、土地の先行取得は必要であると考えます。また、予算審議の段階で町長の説明では、公共施設の占める面積で応分の負担が伴うということですが、20年間の資本利子や事務費など、もろもろの経費を見ると、結果的には割高になるという説明を受けました。であれば、現時点で購入したほうが安く購入することになりますので、私は賛成します。

○議長（中山五雄君）

ほかに反対討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

ないようですから、これより議案第49号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立多数であります。よって、議案第49号は原案のとおり可決されました。

議案第50号 令和元年度上峰町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）の討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第50号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第50号は原案のとおり可決されました。

議案第51号 令和元年度上峰町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）の討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第51号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第51号は原案のとおり可決されました。

議案第52号 令和元年度上峰町土地取得特別会計補正予算（第1号）の討論に入ります。
討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第52号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第52号は原案のとおり可決されました。

議案第53号 令和元年度上峰町農業集落排水特別会計補正予算（第1号）の討論に入ります。
討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第53号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第53号は原案のとおり可決されました。

議案第59号 佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び同組合理約の変更についての討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中山五雄君）

討論なしと認めます。

これより議案第59号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、議案第59号は原案のとおり可決されました。

日程第10 委員会の閉会中の所管事務調査の件について

○議長（中山五雄君）

日程第10. 委員会の閉会中の所管事務調査の件について、これを議題といたします。

お手元に配付のとおり、各委員長から会議規則第75条の規定により所管事務の閉会中の継続調査の申し出がっております。

お諮りいたします。委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに賛成の皆さんの起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中山五雄君）

起立全員であります。よって、本件につきましては委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。

これで本日の日程は全部終了いたします。

これをもちまして、令和元年第3回上峰町議会定例会を閉会いたします。御協力大変ありがとうございました。大変お疲れさまでした。

午後2時26分 閉会

上峰町議会会議規則第127条の規定により、ここに署名する。

令和 年 月 日

上峰町議会議長 中山五雄

上峰町議会議員 寺崎太彦

上峰町議会議員 鈴木千春